

キャラクター名
大山 薫 (おおやま かおる)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	
	パロール					
オプション			年齢	28	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	解放	初期侵食率	34	%
出自			経験	邂逅		

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	1	0	0			1	行動値	16
感覚	3	1	3			7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	2	0	0			2	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	5		RC	1		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	射撃	7r+5				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
錬金術師	P	N		
グロッグハウンド	P	N		
たかとお	P	N		
huzisaki	P	N		
まるやま	P	N		
えどがわ	P	N		
ばっじ	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ハンドレッドガンズ	1	5	マイナー	至近	自身	自動		
効果: 攻撃力+LV+4+5								
瞬速の刃	2	3	メジャー			対決		
効果: 判定ダイスを [Lv+1]								
ダークマター	2	2	マイナー		自身	自身		
効果: パロールエフェ組み合わせたダイス+LV								
コンセントレイト	2	2						
効果: アレ								
ギガンティックモード	1	3	メジャー	武器	範囲	範囲		
効果:								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

大山薫は人を殺したことがある
殺人衝動に飲まれたわけではない。それは避けられない事態だった・・・そうする以外に方法はなかった
大勢の人を救うために引き金を手をかけた・・・そして、撃った・・・
彼の犯行だとは誰も知らない。いまだに知るものはごくわずかにしかない。しかし彼は、人を殺めた・・・
事情を知るものなら彼は英雄だろう。しかし彼はそうは思っていなかった。罪の意識がまるで錘のように取り付き、オーヴァードに目覚めた後も、それは変わらなかった・・・
彼は事情を知るごくわずかな友人から誘いを受けた。「我が組織のエージェントにならないか？」彼は断った。この力を活かすことはたしかにできるだろう。しかし、彼はもう二度とあんなことはごめんだと思っていた・・・
自分が殺めたのは罪人だ。しかし、彼にも更生の余地があったのでは？他に方法があったのでは？考えても仕方のないことにいつも思考を巡らせる・・・
ある日彼はまたしても遭遇する。犯行現場に、悪人が我が物顔で力を振りかざす現場に
助けを乞う人々の中に幼い子供がいた。老人や、将来有望そうな若者もいた。しかし彼らはそんなことなど気にも留めず、いつでもだれでも殺してやるぞという意思があった
---自分が何とかしなければならぬ---
そう感じた瞬間、ふいに手の中に違和感を感じた。モルフェウスの能力によるものだろう。いつのまにか、自分でも無意識にその手には拳銃が握られていた・・・
「手の中に拳銃がある」その事実を理解した途端、彼は驚くほどに自信が冷静になっていくのを感じた。そしてそのことに対し、彼は恐怖を感じた。「いったいなぜこれほど自分は落ち着いているんだ？」
そして彼はまた人を殺めた。驚くほど冷静に、的確に打ち抜いた。おそらく彼らはオーヴァードだったのだろう。死の寸前にかから雷が出ているような気がしたが、今となってはどうでもいい・・・
彼は誓った。「悪を一人を殺めてしまったのなら、他の悪も同様に見逃すまい」と、それこそがせめてもの死者への手向けだった
彼は友人の誘いになり、UGNエージェントとなった。支部長の信頼する人物の一人「大山薫」、またの名を「エージェント・オメル」、彼は今日も悪に鉄槌を下す・・・